

第1章 UACJとは

アルミでかなえる、
軽やかな世界

UACJの理念

コーポレートスローガン

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

私たちUACJグループは、

高品質なアルミニウムの供給を通じて、

人びとの暮らしの向上や持続可能な社会の実現に

貢献していきます。

UACJグループ理念



企業理念

素材の力を引き出す技術で、
持続可能で豊かな社会の
実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて
環境負荷を減らし、
軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

UACJの歩み

産業を支え、日本のアルミニウム圧延業をリード

※製造所、製作所および子会社の名称は、現在のものを表記

1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2015 2020



1898年
国内初の
アルミ圧延事業を開始
写真提供：住友史料館



1960年代～
ビール・清涼飲料容器の
アルミ缶化が進展、
急激な需要増加に対応



1980年代～
軽量化ニーズに応え、
自動車ボディへの
採用が拡大



1980年代～1990年代
需要拡大・高品質ニーズに
応えるため
各拠点の生産能力を増強



2010年代
世界レベルの競争力を
獲得するため
米国、タイに拠点を設立



2020年代
リサイクル性の高い
アルミ缶の需要に
グローバルで供給

1890年代～1940年代
産業の黎明期から、
日本のアルミニウム圧延業界をリード

1950年代～1990年代
日本の経済成長とともに、
さまざまな分野にアルミニウム製品を供給

2000年代～
業界再編が進むなかで、UACJが誕生
日本経済の停滞を受けて、グローバル化と構造改革で事業基盤を強化

※¹ Tri-Arrows Aluminum Inc. ※² UACJ (Thailand) Co., Ltd ※³ UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

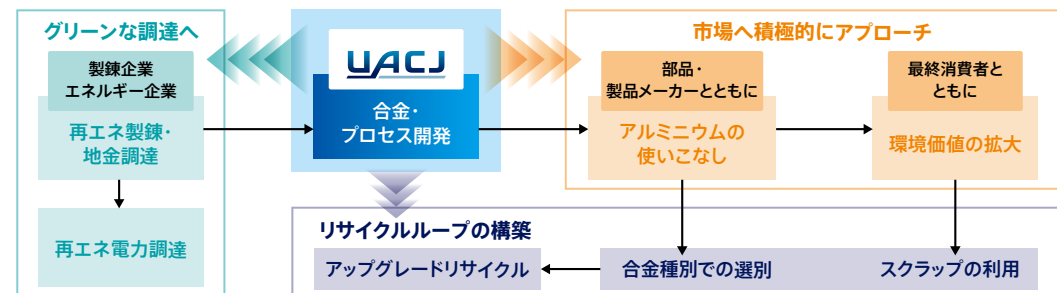
ビジネスモデル

求められる機能を実現する多彩なアルミニウム製品を提供



環境価値の拡大に挑み アルミニウムの価値をさらに高める

アルミニウムは、多彩な特性を有し、さまざまな場面で活躍できる素材であることから、産業・社会の至るところで広く利用されてきました。当社は、市場への積極的なアプローチで環境価値を訴求し、アルミニウムが利用される場面をさらに広げるとともに、リサイクルループの拡大に挑戦。さらに、再生可能エネルギーで製錬されたグリーン地金を調達するなど、アルミニウムがもたらす価値をさらに高めています。



特徴1

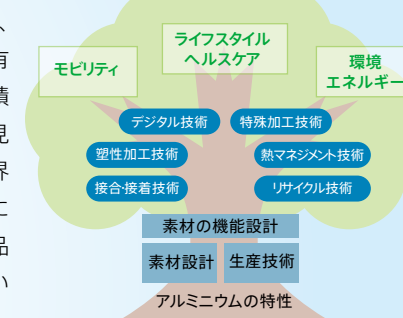
多彩な加工力

多彩な加工力を活かし、さまざまな分野にアルミニウム製品を供給



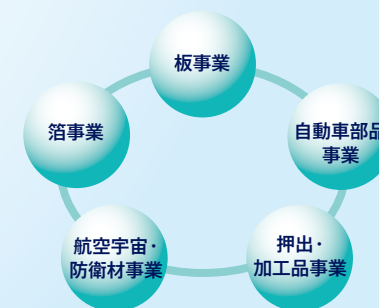
強み 125年以上にわたり培ってきたアルミニウムの知見

当社は125年以上にわたってアルミニウムに向き合い、事業を展開してきました。そのためアルミニウムの特性を熟知しており、素材設計などの基礎技術から熱マネジメント技術や特殊加工技術などの応用技術まで、高い技術を幅広く有しています。長年積み重ねてきた知見が、さまざまな業界のお客様のニーズに応える、多様な製品の提供に繋がっています。



強み お客様ニーズにワンストップで対応する事業間連携

当社は、アルミ圧延業界の中で類を見ないほどの多彩な加工力を有し、グループ内でさまざまな加工製品を製造できます。お客様のニーズや用途に応じた機能を付与することで、付加価値の高いアルミニウム製品をワンストップで供給可能です。事業の垣根を越えたシナジーにより、お客さまが使いやすいソリューションを提供します。



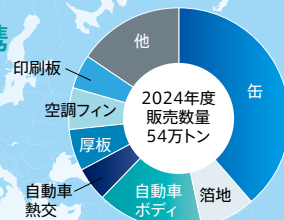
特徴2

供給体制

伸長する需要に世界3極の供給体制で対応

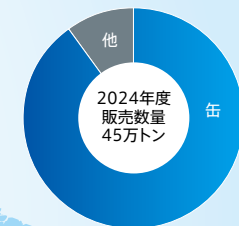
日本：UACJ

強固な顧客基盤、5事業連携
による多彩な加工力
生産能力：約64万トン/年



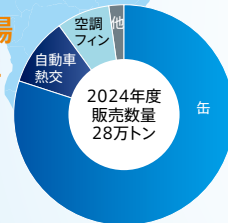
米国：TAA

旺盛な北米需要の獲得
生産能力：約45万トン/年



タイ：UATH

東南アジア地域の基幹工場
生産能力：約34万トン/年



※ 板事業の数値を記載。2024年度販売数量は、内部取引控除後

強み 年間140万トン超の生産能力

当社のアルミニウム板圧延品の生産能力は、年間140万トン超を誇ります。2013年の経営統合以来、北米とアジアを成長市場と位置づけ大型設備投資を行った結果、販売量は世界第3位の規模へと成長しました。売上収益は約1兆円で、その半分以上を海外が占めています。世界的な需要の伸長に対して高い供給能力で応えとともに、持続可能な社会への転換を図る産業界を支えています。

2024年度 アルミニウム圧延品年間販売量

1位	A社	380万トン
2位	B社	140万トン
3位	UACJ	130万トン
3位	C社	130万トン
5位	D社	50万トン

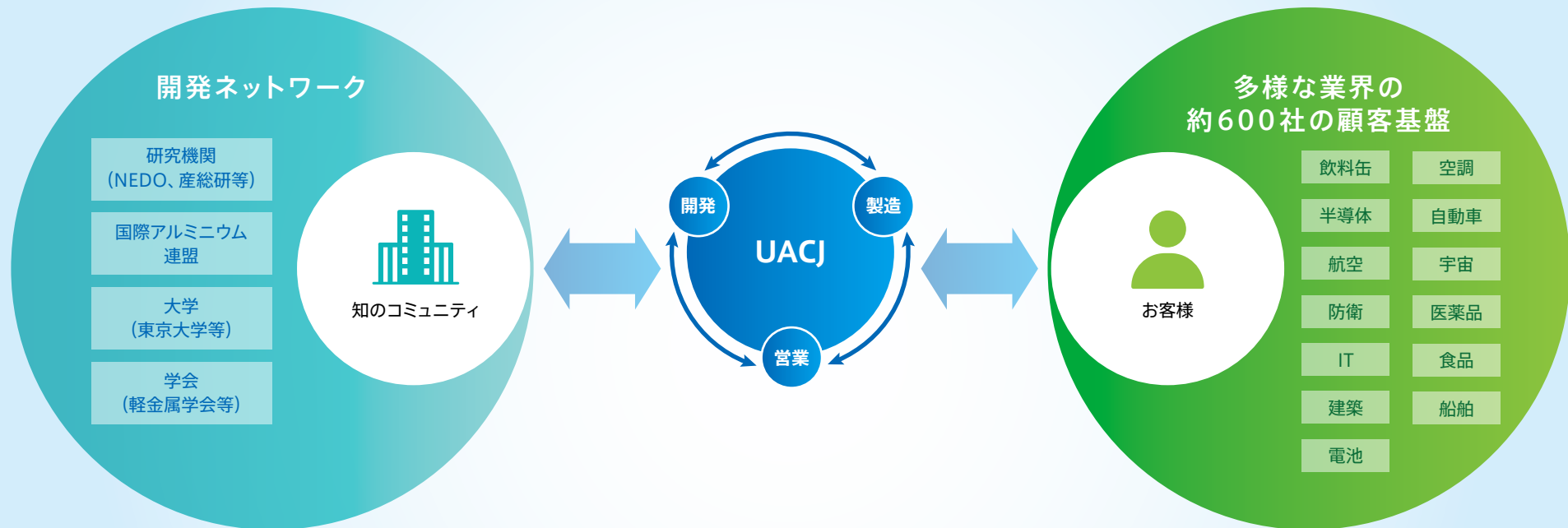
出典：当社調べ

強み 生産能力を補完しあう3極体制

これまで当社は、世界的に旺盛な需要を捕捉して成長してきました。それを可能にしたのは、年間生産能力30万トン以上の製造拠点を日本、米国、タイに有し、グローバル供給体制を構築してきたためです。それぞれが位置する地域の需要に応えるのみならず、他地域への供給も担い、補完しあう体制を確立しました。かねてから需要が旺盛な米国市場に対して、米国拠点で賄いきれない需要をタイ拠点からの供給で補っています。また、欧州では、近年飲料容器でガラスびんから缶へのシフトが見られ、需要拡大が続いており、日本の製造拠点から供給するとともに、将来的にタイの製造拠点からの供給も視野に入れています。このように築き上げてきたグローバル供給体制を活かして、増大が続くアルミニウム需要を着実に捕捉していきます。

特徴3 ネットワーク

新たな価値を生み出す共創ネットワーク



強み 産学官に広がる開発ネットワーク

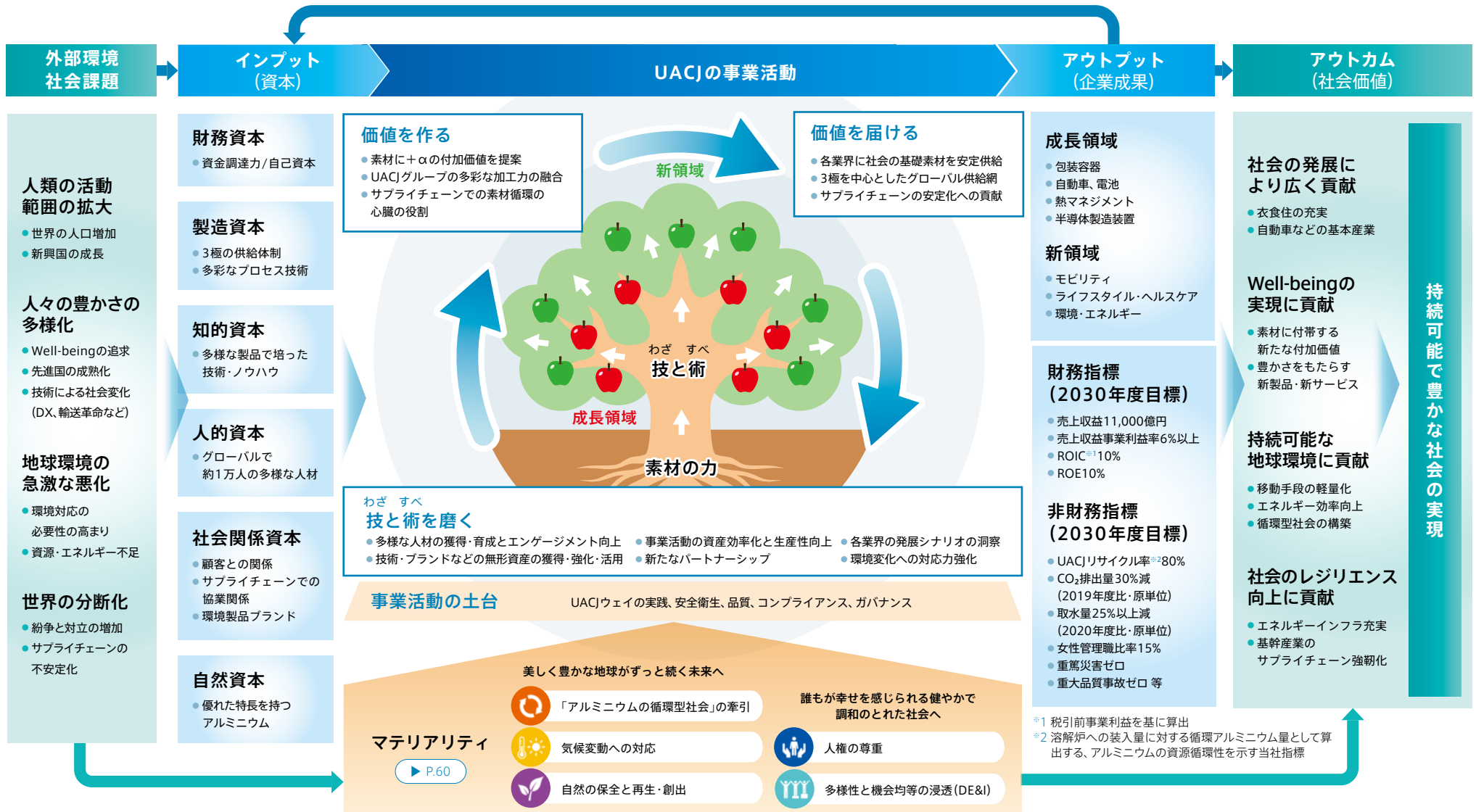
当社はアルミニウムの可能性を拓けるべく、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) や大学など、産学官で共創に取り組み、最先端の研究に力を入れてきました。革新的なアルミニウム材料の開発や、リサイクル技術の高度化などに取り組んでいます。また、業界をリードする企業として、アルミニウム循環型社会の実現に向けた仕組みづくりにも参画しています。国際アルミニウム連盟や、日本、米国、タイの各国のアルミニウム協会と連携し、リサイクル推進のための仕組みづくりや技術開発の推進に努め、アルミニウムの価値向上に貢献していきます。

強み 開発の種となる約600社の顧客基盤

当社には、多種多様な業界からなる約600社の顧客基盤があります。いただいた「お客様の声」は、アルミニウムのさらなる可能性の探求に繋がっています。この探求にあたっては、お客様との共創を重視し、営業、製造、開発の各部門が一体となって、お客様のニーズに応える製品開発や供給体制を実現してきました。また2019年には、R&Dセンター内に体験型展示スペース「U-AI Lab.」を設置。アルミニウムのさまざまな特性や当社のコア技術を紹介し、来館したお客様との意見交換を行うなど、アルミニウム製品の新たな可能性を探る共創の場となっています。

価値創造プロセス

UACJグループが成長し続けるために ～強みとなる資本を活かし、社会課題の解決に貢献し、価値を創出～



経営資本

価値創造の源となる、6つの資本

	財務資本	製造資本	知的資本	人的資本	社会関係資本	自然資本
資本の具体例と実績・目標	● ROIC※1 1.9%(2019年度) → 7.6%(2024年度) ● D/Eレシオ※2 1.6倍(2019年度) → 1.0倍(2024年度) ● 発行体信用格付※3 A格	● 設備投資額※4 267億円(第3次中計の年平均) → 400億円(第4次中計の年平均) ● 板事業の生産能力 年間140万トン超	● 研究開発費 43億円(2019年度) → 48億円(2024年度) ● ALmitas+ブランド累計採用 件数 3件(2023年度) → 10件(2024年度)	● 多様性と機会均等の浸透度※5 3.04(2020年度) → 3.12(2024年度) ● 女性管理職比率※6 7.6%(2019年度) → 11.1%(2024年度)	● クレーム件数 △52%(2024年度、2020年度比) ● 教育支援活動の受益者数 920人(2019年度) → 992人(2024年度)	● UACJリサイクル率※7 65%(2019年度) → 73.9%(2024年度) ● CO₂排出量 Scope1・2排出量の削減率※8 △19.2%(2024年度、2019年度比・原単位) ● 取水量の削減率※9 △20.7%(2024年度、2020年度比)
強み	● 資産合計約1兆円の財務規模	● 多彩な加工力(設備) ● 世界3極の供給体制	● 多彩な加工力(技術・ノウハウ) ● アルミニウム合金開発力	● 多様なスキルを持った人材の融合	● 多様な業界の約600社の顧客基盤 ● サプライヤーとの良好な関係 ● 地域社会との良好な関係	● アルミニウムの持つ素材の力
課題	● 財務健全性の改善 ● 適切なキャッシュ・アロケーション ● 運転資金の増加への対応	● 成長地域・分野の生産能力増強 ● 生産性向上	● 価値創造の源泉となる技術開発力の強化 ● デジタル技術の開発・活用 ● アルミニウムの特性を活かしたブランディング	● 必要な人材の質と量の確保 ● 人材の多様性の向上	● サプライヤー・顧客とのさらなる関係強化 ● UACJやアルミニウム素材の認知度向上 ● 品質への責任 ● 地域社会への貢献	● アルミニウムの循環型社会の構築 ● 自然への負の影響の緩和
経営戦略における強化策	● 財務規律 ● 事業ポートフォリオ管理 ● CCC※10など運転資本管理によるキャッシュ創出	● 航空宇宙・防衛材事業への重点投資 ● 世界3極のリサイクル設備への投資 ● 世界3極体制を活用した柔軟な生産体制の構築 ● 省エネ・省人化設備への更新	● リサイクル技術の開発 ● 自動化・無人化に向けたデジタル技術開発 ● ALmitas+ブランドの拡大	● リーダー人材の獲得・育成 ● 人材の多様性確保 ● 社員エンゲージメント向上 ● 組織力の強化・人材マネジメントシステムの整備	● サプライチェーン・バリューチェーンでの連携・協業 ● サプライチェーン含めた人権マネジメント ● コーポレート・ブランディング、製品ブランディング ● 地域社会との関係強化	● リサイクル推進 ● グリーンアルミの確保 ● 再生可能エネルギー由来電力への切り替え ● 取水量削減
主な関連コンテンツ	● アナリストとの対話 ▶ P.21 ● 財務戦略 ▶ P.33	● 中期経営計画 ▶ P.29 ● 事業別報告 ▶ P.53	● 技術・マーケティング対話 ▶ P.39 ● 技術・マーケティング戦略 ▶ P.42	● 人材戦略 ▶ P.47 ● 多様性と機会均等の浸透 ▶ P.69 ● 人権の尊重 ▶ P.70	● インパクト投資家との対話 ▶ P.25 ● 人権の尊重 ▶ P.70	● インパクト投資家との対話 ▶ P.25 ● リサイクル推進 ▶ P.35 ● 環境への取り組み ▶ P.64

※1 税引前事業利益を基に算出 ※2 劣後ローンの資本性を考慮 ※3 発行体信用格付で格付投資情報センター(R&I):A-(安定的)、日本格付研究所(JCR):A-(安定的)(2025年7月31日現在) ※4 第3次中計は2021~2023年度の3ヶ年平均、第4次中計は2024~2027年度の4ヶ年平均(計画) ※5 ダイバーシティ(DE&I)にかかるエンゲージメント調査設問項目の平均点数 ※6 役員を除く ※7 UACJリサイクル率=循環アルミ量/溶解炉への装入量(純アルミ材を除く) ※8 第6次エネルギー基本計画に基づき算出 ※9 取水は下水再生水含む、工業用水、水道水、井戸水、地表水を対象 ※10 CCC:キャッシュ・コンバージョン・サイクル